

よこまくら いせき 12. 横枕遺跡

所在地：越前市粟田部町

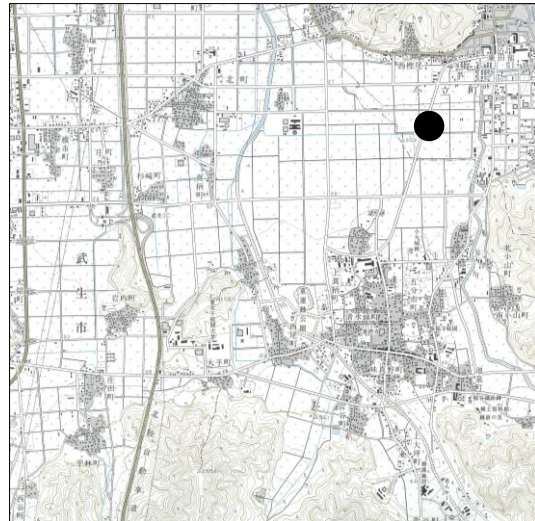
調査原因：倉庫建設工事

調査期間：平成 30 年 9 月 3 日～10 月 12 日

調査主体：越前市教育委員会

調査面積：200 m²

時代：弥生時代



位置図 (S=1/25,000)

調査の概要 調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の「横枕遺跡」の範囲に含まれる場所です。平成 11 年度に、今回の調査地に隣接する地点で発掘調査が実施されており、その際に、弥生時代の集落跡とみられる遺構、遺物が検出されています。

今回の調査は、事前の試掘調査によって造成予定地の一部に遺構が発見されたため、本調査を行うこととなりました。

遺構 調査区西側に長軸約 6.46m、短軸約 1m、深さ 41 cm になる、くの字型に折れ曲がった溝状遺構 (SD01) が 1 条検出されました。遺構の性格は不明ですが、溝壁面がほぼ垂直に近いことや、少量ですが遺構内から土器片が出土したことから、人為的に掘られたものと考えられます。また、調査区の中央から南面にかけてピットが 4 基検出されました。そのうち、SP01、SP04 の 2 基が柱穴と考えられますが、SP01 は長軸約 38 cm、短軸約 33 cm、SP04 の長軸約 22 cm、短軸約 22 cm と大きさに明らかに違いが見られることから、対応した柱穴ではなく、それぞれ独立したものと考えられます。また、それぞれに対応した柱穴については、圃場整備の際に削平されてしまったのか、今回の調査では確認することができませんでした。

遺物 溝状遺構の中から、主に弥生時代の土器を検出しました。器種は、高坏または器台の脚部や甕、壺の口縁部、胴部片などが少量ですが、主に SD01 からまとまって出土しました。また、攪乱面からは縄文土器の小片が 1 点出土しましたが、あわせて須恵器片や陶器も出土していることから、これは圃場整備を行った際の流れ込みによるものと考えられます。

まとめ 今回の調査では、平成 11 年度に発見された集落跡の北境に位置していることを想定して調査を進めましたが、はっきりとしたムラの境を確認することはできませんでした。

(用田聖実)



調査区全景 (南から)



SP01



SP04



SD01 遺物出土状況 (南東から)



SD01 出土遺物